

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	Y.O	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2	派遣国	フランス
派遣大学	トゥール語学学院		
コース名	第2クォータープログラム		
期 間	2026 年 8 月 2 日～ 2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

オンラインで受けた試験によってクラスが割り振られました。その試験を受ける日程が発日から日数がかかなり前であるため、実際にフランスに行ったときにはそのレベルが不十分である可能性があります。月ごとにクラスの編成が変わるので、クラスのレベルを変えた場合は初日に変更することをお勧めします。私の場合は A1 のクラスで簡単だったので、クラスの変更を一週間後に願い出たら断られました。しかし A1 にいた他のメンバーの子どもレベル的に A1 以上が見込まれたため、そのクラス全体の授業内容が最初よりかはアップグレードされました。

授業的には、先生だけでなく生徒も主体になって授業に参加する形式でした。そのため主体的に発言することが求められます。先生に当ててもらうことを待っていても自分に出番が回ってこない可能性があります。そのため、答えや考え、質問がある場合には授業内ですぐ発言するようにしていました。もちろん先生に質問や話かけるときは基本フランス語でした。その方が学習面的にも授業参加度的にもより効果的です。

学習内容的には、会話、文法、単語、ライティングを網羅していました。会話ではテキストのディアログを声に出して読み、その後にそのディアログの内容を少しアレンジしてグループごとに発表しました。その際に紙にスクリプトを記録しておけば添削してくれます。A1 のクラスでは文法は主に、複合過去と半過去をテキストや先生の出すお題に沿って練習しました。文法内容的には簡単なのですが、出てくる単語がキッチン用品や家具などで新しく出会う単語が多かったイメージです。課題は出ない日が多かったのですが、出るときには文法問題練習のプリントでした。次の授業で答え合わせと解説をしてくれます。

文化を学ぶ授業では、実際に Tours にある美術館や図書館に足を運びました。一つの美術館ではインストラクターがゆっくりフランス語で作品について説明してくれました。質問にも答えてもらうことができとてもためになりました。また Tours 地域をめぐってマルシェで買い物をしたり、地域内にある歴史的な建造物について、町のひとに話しかけて情報を得たりしました。これらの校外学習の後には学校で、その芸術作品や建物についての再説明をするように求められました。そのため、大事なことをメモするのが大切です。一回得たことをアウトプットするため、ただ聞き流すのではなく自分自身に落とし込むことができました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

例文に沿ってシチュエーションを自分で考えて文を再考する授業形式やそれが日常的に実践できる内容であったため、より実践的な会話の能力が身についたと感じます。また単語のボキャブラリー的にも自分の知らない領域のものが多かったので、異なる領域で単語の知識を増やすことができました。またネイティブ特有の省略の表現など先生との会話の中で新しく学ぶことができました。文法面的には復習にはなりましたが既知の情報であったため物足りなくも感じました。しかし既に知っているというアドバンスがあったため、その文法についてより詳しく、知識の穴埋めをすることができました。また定冠詞・部分冠詞の使い分け方が日本で学習した際の認識とずれていたため、それを学びなおせたことがよかったと思います。プリントの例題文章も、日本のテキストよりもより自然な会話表現が多かった点において、現地の会話を学ぶことができたと思います。

また先生にもよるのですが、他のクラスではプレゼン発表があったらしく、インプットのみだけでなくアウトプットが充実してより身に付きやすい授業形態になっていると思います。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、フランス語で授業が行われるので、先生の説明が理解できるか、そして他の生徒ともうまくかわれるかが不安でした。しかし先生はわかりやすいフランス語でゆっくり話してくれるので聞き取りやすいです。また理解できなかったときは、質問すれば先生が親身に簡単なフランス語で説明してくれるので、最終的に置いて行かれることはなく、理解することができました。

生徒間では基本的にフランス語で話していましたが、A1 内でもレベルに大きな差がある生徒もいたため、グループワークでは英語で話すこともありました。実際に学校生徒は優しい子ばかりで相手を理解することに長けています。

授業内では解説ばかりではなく、自ら発言することが求められたので、主体性が以前よりも前向きになった気がします。フランス語を使って授業に参加することがとても楽しかったです。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

より実践的な学習が必要であると感じました。というのも、フランスでは、実際に生きたフランス語がある環境下でフランス語を学ぶことができるので、ポテンシャルもその分上がります。生きたフランス語に触れ続けながら勉強することの大切さを実感しました。具体的にはフランス語のトーク動画などを学習方法に活用しようと思います。また、現地ではフランス語を使おうと意識したためフランス語のスピーキング能力が上がりました。そのため日本であったとしても、フランスを日常的に一人言などで使用するよう意識したいです。